

十勝の土壌と農業

Part 3

筒木 潔

帯広畜産大学名誉教授

土壌学

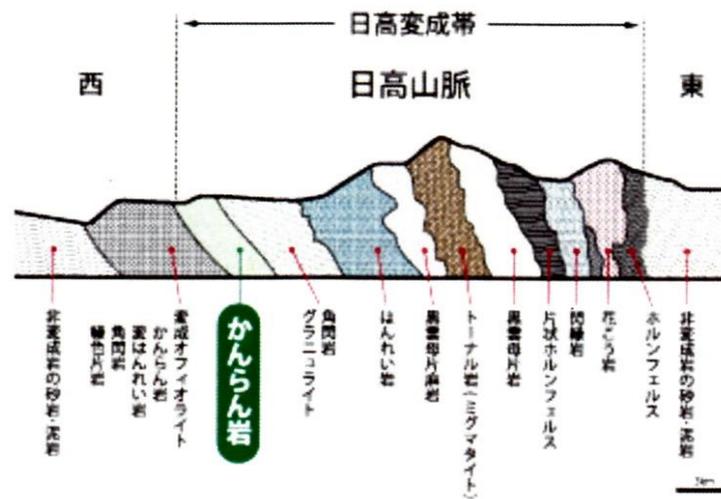
<https://tsutsuki.net>

Part 3

十勝平野の成り立ち

約1300万年前（新第三紀中新世）プレートの衝突によって日高山脈の隆起が始まった。

2. 衝突によって生まれた日高山脈とアポイ岳 | 「アポイ岳ジオパーク」公式サイトー北海道様似町を丸ごと楽しむ大地の公園

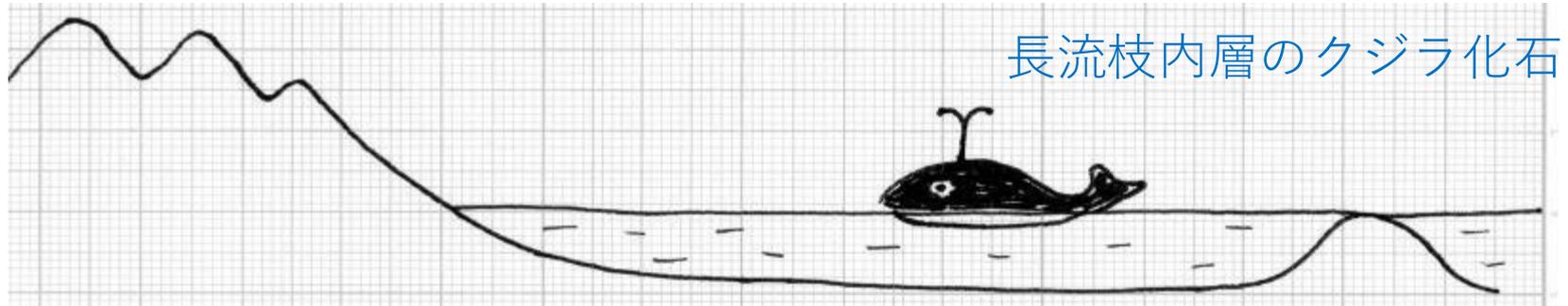


日高山脈東西断面図

アムールプレート オホーツクプレート
「揺れ動く大地 プレートと北海道」,
木村・宮坂・亀田(2018)

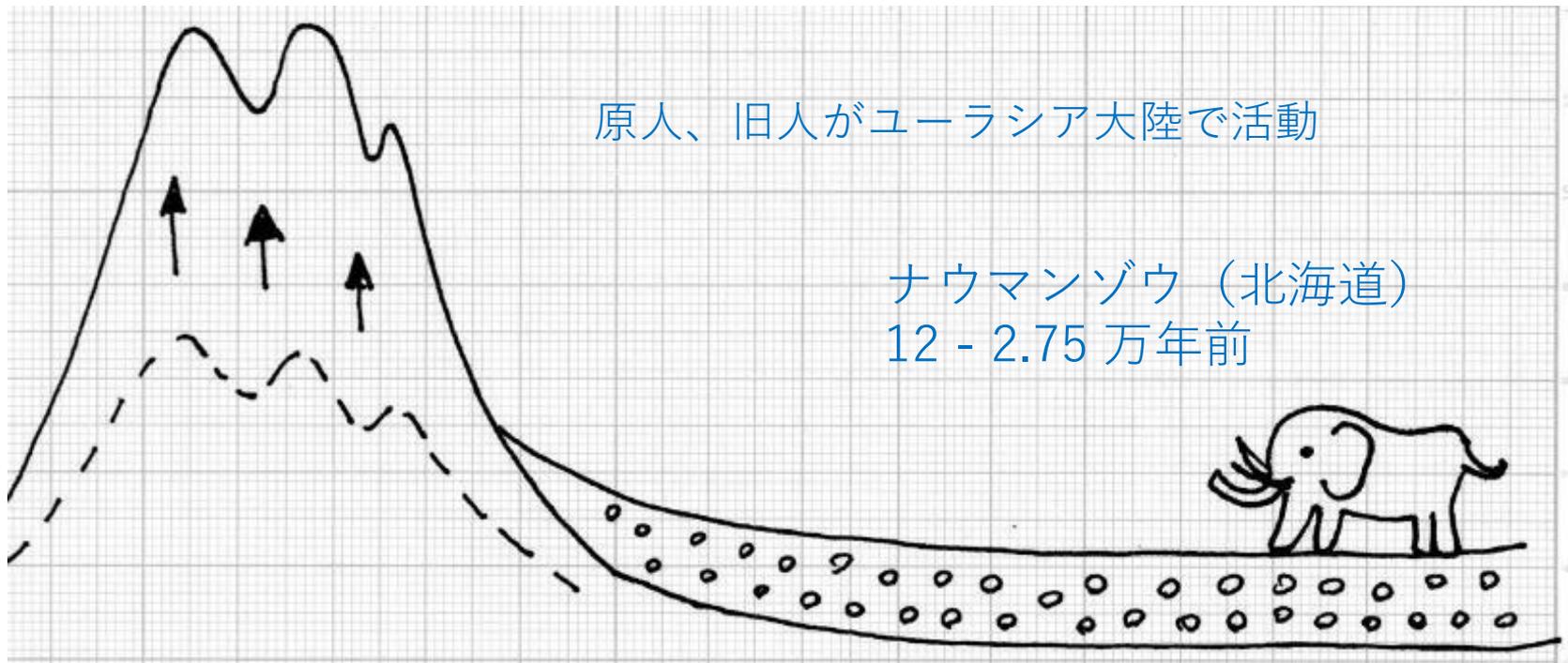
更新世前期(258万～78万年前)

十勝平野は外洋につながる入り江だった。
長流枝内の海 (200万年～100万年前頃)。
十勝三股カルデラの大噴火 100万年前頃。



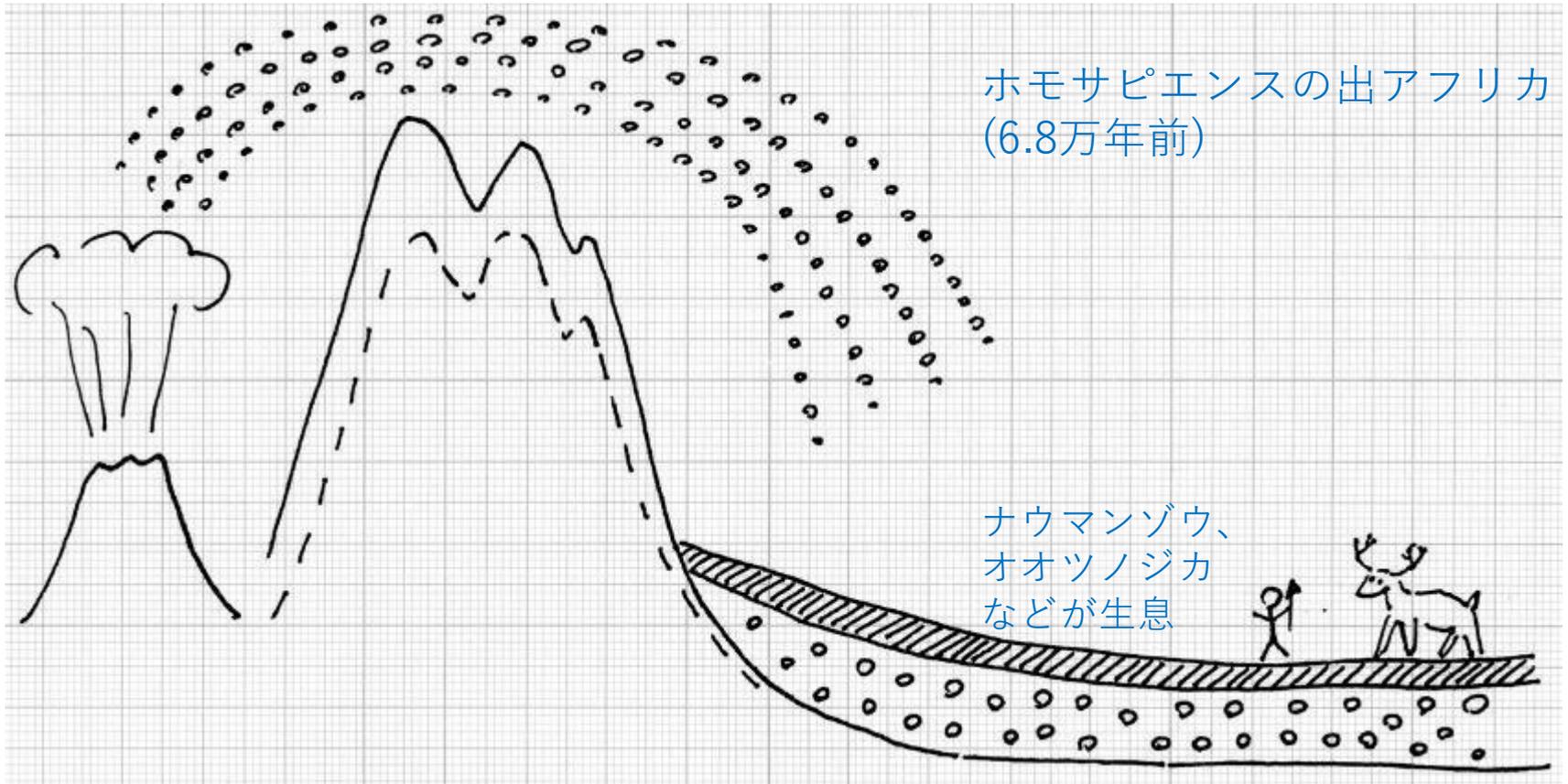
更新世中期(77.4万～12.9万年前)

チバニアン期。日高山脈が隆起するとともに、
多量の土砂とレキが平野に堆積した。



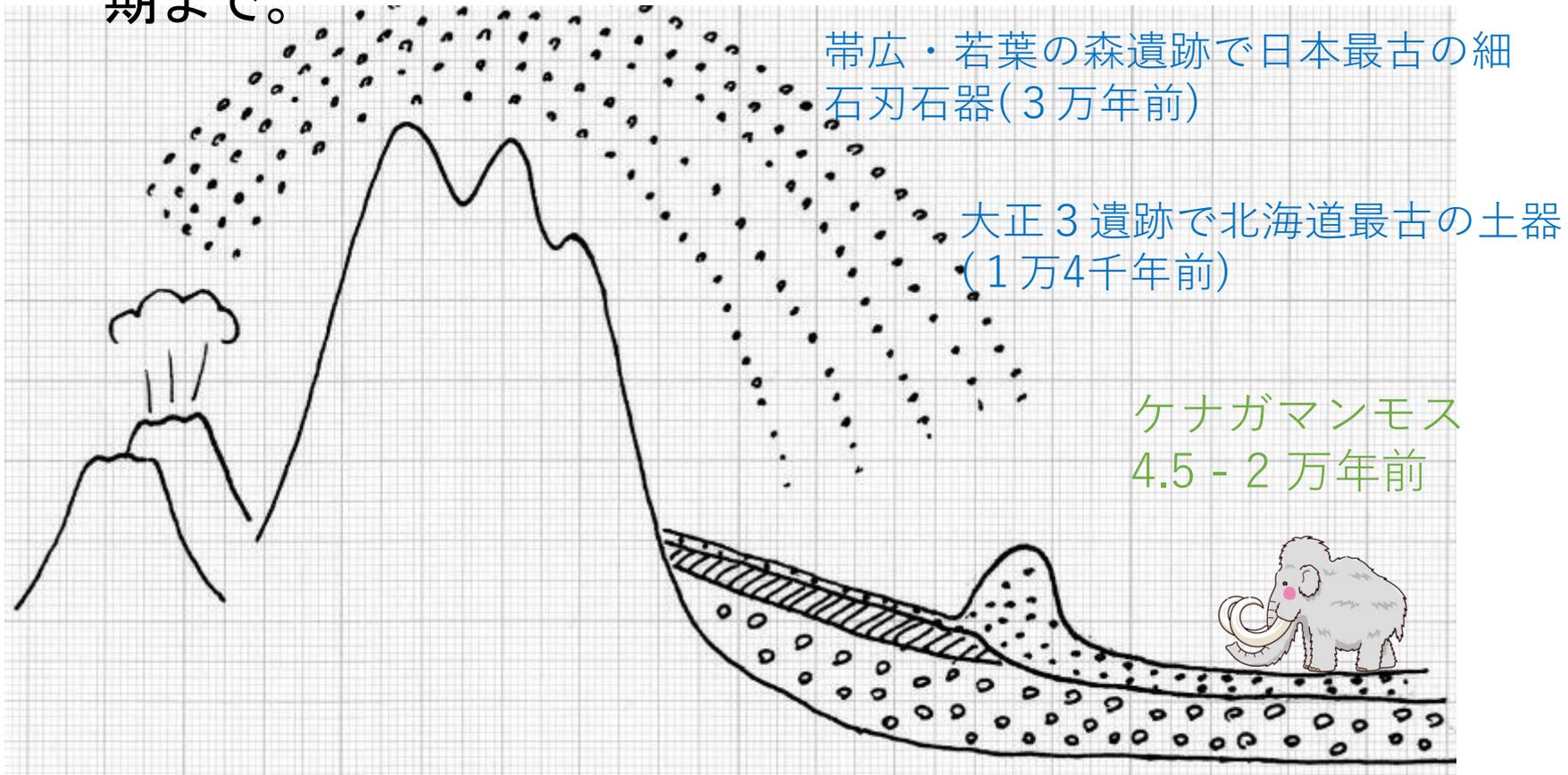
更新世後期(13万～4万年前)

火山灰の降灰(洞爺テフラから支笏1まで)。温暖な間氷期から寒冷な最終氷期へ



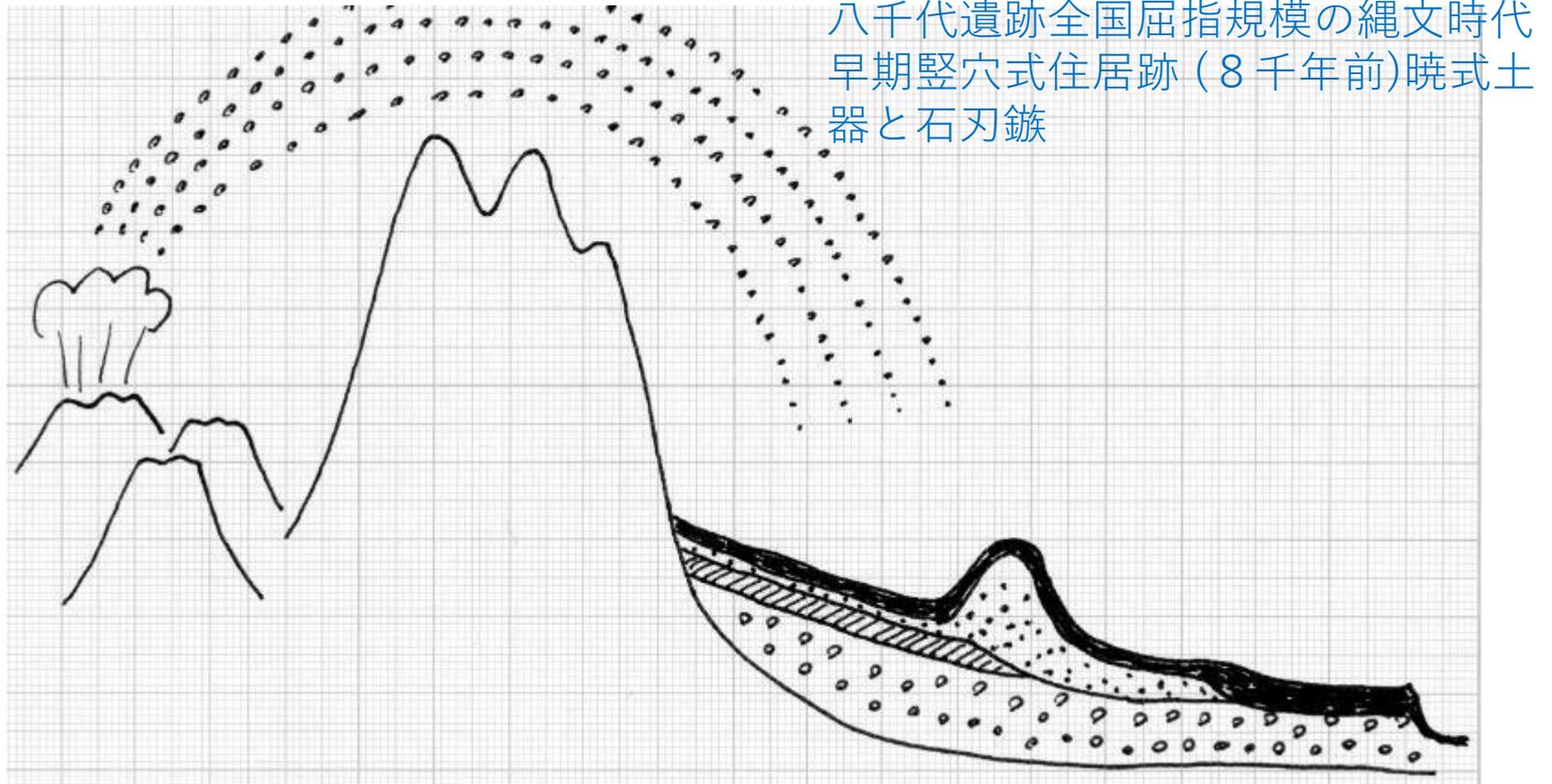
更新世終期(4万～1.17万年前)

平野の侵食と新たな火山灰の降灰(恵庭aなど)。
古砂丘の堆積。氷河期。寒の戻り、ヤンガードリアス
期まで。



完新世（11,700年前以降）

温暖化。海進と海退。新しい火山灰の降灰。侵食と沖積平野の形成。人類の活動。縄文文化。農耕の開始。

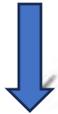


段丘地形のでき方と火山灰の堆積

低地土の堆積



隆起・侵食



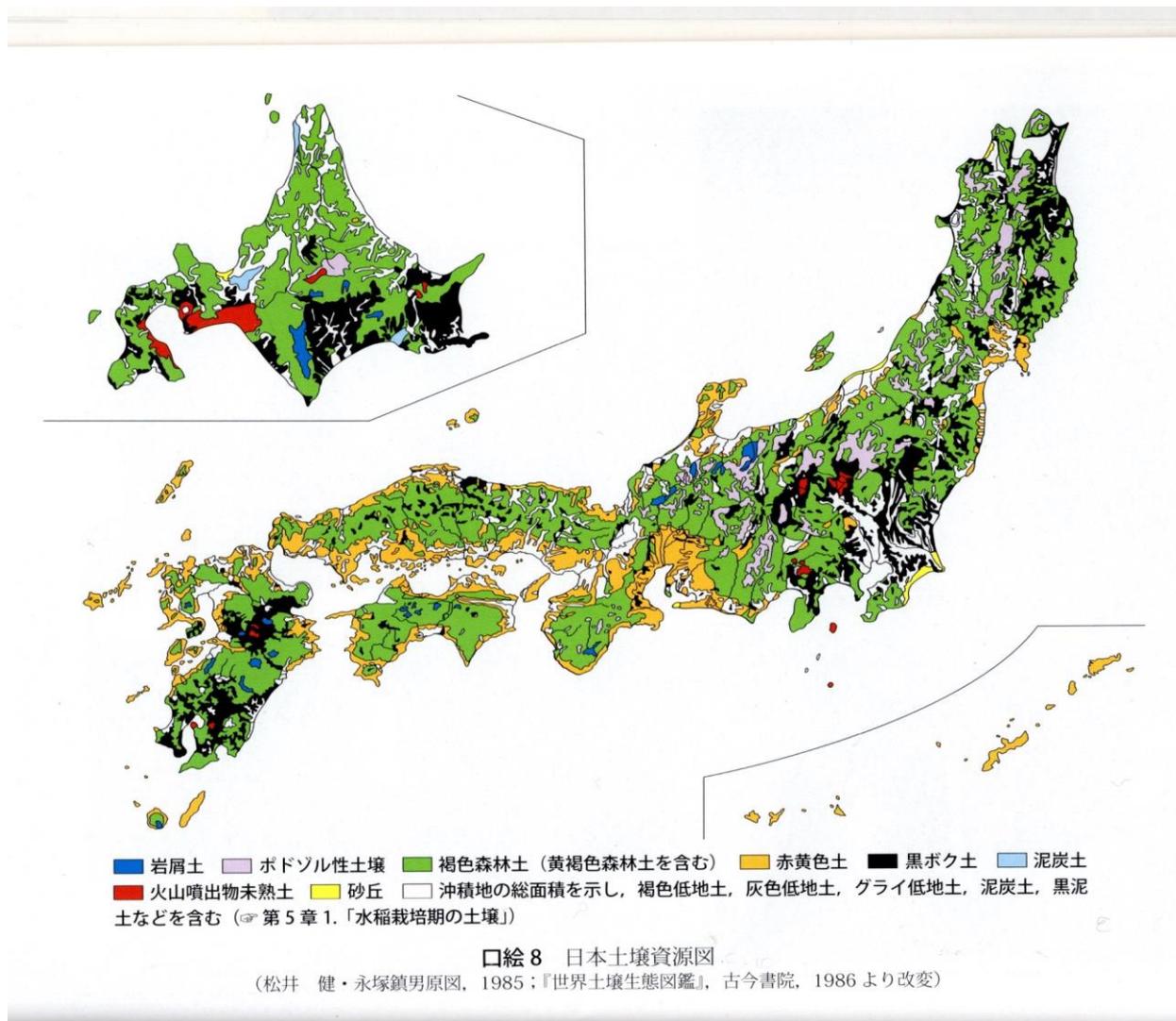
新しい火山灰や
風成層の堆積

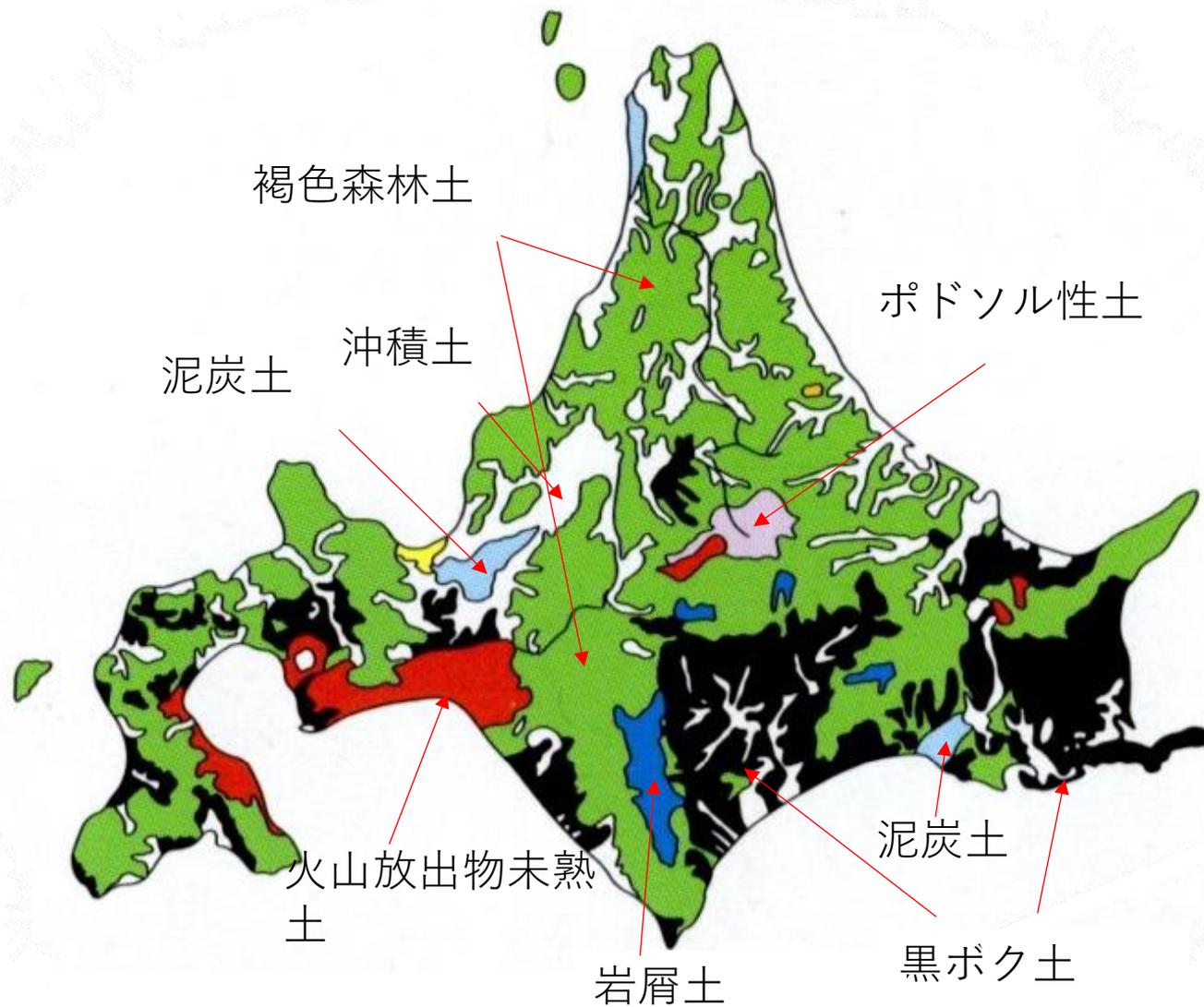


段丘地形のでき方

- 造山運動によって土地が全体に隆起すると、
- 丘陵および山地で侵食された土砂が平野に堆積するとともに、平野の縁に段丘崖が形成される。
- 寒冷期（氷河期）には海が後退し広い平野ができるとともに、丘陵および山地の侵食が進む。
- 温暖期（間氷期）には土砂の堆積の方が優先する。
- 火山の噴火の度に平野は火山灰で覆われるが、低い段丘面では古い火山灰は失われている。
- 従って、高い段丘面ほど古い火山灰が残っている。

日本土壌資源図 松井・永塚 1985





日本土壌資源図 (松井・永塚 1985) より